

熊本高専
熊本キャンパス
図書館だより



第28号
2017年3月発行

校内読書感想文コンクール
結果発表 p.1
最優秀賞感想文 p.2
図書委員のおススメ本 p.3

レポート：
あの日の現実 p.4
特集：
電子ジャーナル事始め p.6
図書館活用のすすめ p.7

編集後記 p.7
図書館統計データ p.8

くぬぎの森



平成28年度校内読書感想文コンクール表彰式にて (2016年10月19日)

平成28年度校内読書感想文コンクール結果発表

【最優秀賞】『思い込み』によるすれ違い

1年2組 浅野 華奈子

【優秀賞】 秘密 2年1組 稲継 玲奈

【優秀賞】 「車輪の下」を読んで

2年1組 古賀 大貴

【優秀賞】 マネージャーから見た甲子園

1年3組 池田 漠

【優秀賞】 オールドテロリストを読んで

1年3組 三次 伶奈

【佳作】 銀糸が繋ぐ善と悪 2年1組 田上 摩耶

【佳作】 「車輪の下」を読んで 2年2組 澤田 賢太郎

【佳作】 『追憶の夜想曲』 2年2組 玉田 聖規

【佳作】 『よだかの星』を読んで 2年3組 小崎 野々花

【佳作】 心を整える 1年2組 長 拓輝

【佳作】 「恋に落ちた人魚」を読んで

1年3組 財津 ほのか

【佳作】 カエルの楽園を読んで 1年3組 田中 悠貴

【佳作】 「はやぶさ」 1年3組 野口 太郎

* 入賞者には副賞として、最優秀作（1編）賞状及び図書券（10,000円）・優秀作（4編）賞状及び図書券（6,000円）・佳作（8編）賞状及び図書券（3,000円）が贈られました。

第36回全国高校生読書体験記コンクール中央審査で 池田 漠さんが「入選」、

第62回青少年読書感想文全国コンクール熊本県審査で 小崎 野々花さんが「佳作」となりました。

平成28年度校内読書感想文コンクール

最優秀賞感想文

『思い込み』によるすれ違い

1年2組 浅野 華奈子

『思い込み』今まで私はこの言葉を意識したことが無かった。さほど重要だと思ったことが無かった。しかし周りを見回してみると案外『思いこみ』は多いのではないだろうか。そう思うきっかけとなったのが湊かなえさんの作品「告白」だ。「愛美は事故で死んだのではなく、このクラスの生徒に殺されたからです。」という衝撃的な教師の一言から始まるこの作品に、私が初めて出会ったのは小学生の時だ。

映画化された作品を見た。「告白」というタイトルから華やかな恋愛物語だと思っていた私が見たものは、それとはかけ離れた重苦しい物語だった。愛の告白ではなく、罪の告白だった。当時はあまり内容を読み取ることができなかったが、見終えた後のもやっとした感覚だけは残っていた。だから、書店で本を見つけた時は懐かしさと共に、あの感覚は何だったのだろう……と興味がわき、すぐに手に取った。購入したその日のうちに読んでしまったが、やはりあの時と同じような居心地の悪いもやっとした感覚におそわれた。

この作品は娘を自分の生徒に殺された教師が間接的にじっくりと復讐する様子やなぜ娘が殺されたのかを綴った作品である。一つの事件について、それぞれの登場人物の目線で書かれている。殺された娘の母親である教師、娘を殺そうとしたが最終的には殺すことができなかった少年A、殺意はなかったが娘を殺すことになってしまった少年Bの姉、そして少年A・Bのクラスメイトであるミヅホ(美月)。一人一人が事件に対して様々な感情を抱き、お互いに複雑な思いを綴ってある。この人がこれをしている時、あの人はこう思ったのか……と、登場人物全員の視点を組み合わせることによって事件の真相が少しずつみえてくるのだ。

この作品を読んでいると、『思い込み』によるすれ違いがいくつも起っていることがわかる。「—— ウェルテルにチクったのって、ミヅホ、あんたでしょ。」これは娘を殺された教師が学校を去った後、新しく担任となった教師(ウェルテル)が

「このクラスにはいじめがあります。と書かれた手紙をもらった。」

と話しをした後に発せられた一言だ。ミヅホはこのクラスの学級委員長を務めており、少年Aへのいじめ

は見て見ぬふりをしていた。もちろんミヅホはそんな手紙など書いていない。しかし、ミヅホがチクったのだと思い込んだクラスメイト達は、ミヅホの事までいじめられるようになってしまう。ミヅホは、クラスメイトの勘違いによって理不尽に辛い思いをするのだ。どうして、こんなことが起きてしまうのだろうか。

私は以前、SNSが原因で起きた事件を耳にしたことがある。それはSNS上の友達との会話で女の子が「可愛くない」と書き込んだところ、仲間はずれにされたという事件だ。女の子は肯定的に「可愛くない?」と書いたつもりだったが、友達は「可愛くない」と否定的に書かれたと思い込み、グループから排除したのだ。中学でSNSを使用する時のルールを決める時、私たちの校長先生が話してくださった事件であり、私たちの中学校では有名な事件である。「可愛くない」というたった一文でもすれ違いは起こり、二人の関係を悪化させてしまうのだ。この場合、相手に自分の意志が伝わりづらい文を送ってしまった側に問題はあると思う。これがもし「可愛いと思わない?」「これ可愛いよね」と書き込んでいたら、結果はどうだろう。きっと、「うんそうだね」「私も可愛いと思うよ」とお互いに気持ち良く会話できたのではないだろうか。自分の意志を相手に分かりやすい文章で伝える。それは『思い込み』を防ぐことに繋がるのだ。

また、『思い込み』が発生しやすいのは、先頭に立つような力を持つ人間が発言をした時だと思う。「告白」でもウェルテルにチクったのはミヅホだと言いついたのはクラスの人気者だった。力のある人間が「こうなのだ」と意志を示せば、周りの人は「そうかもしれない」と思い込みやすくなるのだ。しかし、力のあるものの意見が正解だとは限らない。

私はこの本を読んで『思い込み』が、日々の日常にもたくさん潜んでいるとわかった。『思い込み』を無くすためには、お互いに考えを伝え合うことが必要だと思う。そのためには、一人一人が自分の考えを持たなければならない。私には、自分なりの意見を持つ力と、それを言葉にして伝える力が不足している。だから日常の中で力をつける訓練をしようと思う。考えたことだけでなく、見たり聴いたりしたものについて、丁寧に分かりやすく伝えたい。そして『思い込み』によるすれ違いが無い関係を築ける人間になりたい。

図書委員の おすすめ本



カエルの楽園
百田尚樹 著

カエルの楽園はカエルが主人公のお話です。この本はフィクションであり、実在の人物、団体等とは一切関係はありません。しかし、実はこの物語、それぞれの登場するキャラクターや舞台となる国について深く知っていくと、あるものを寓話に見立てて痛烈に表現しているのわかってきます。あるものとはなんなのか、それがわかったとき、この本と作者のすごさがわかると思います。ちなみに私は読み終えた後、「この本すごいな・・・」と思いました。最後に、この本は我々高専生でもちょっとした時間にさらっと読めるような内容となっています。ぜひ読んでみてください。

(1年3組 田中悠貴)



話し方入門
D・カーネギー著

私たちは、人に何かを伝えるとき、言葉を通して伝えます。人の心をつかむことが出来れば、それはよく伝わるし、つかむことが出来なければ、退屈なものになってしまいます。人前でプレゼン、スピーチをする時にも同じことが言えます。人の心をつかむ「話す技術」を教えてくれるのがこの本です。人前で話すのが苦手な人も、得意な人も是非読んでみてください。人前で発表するとき、見える景色が変わります。(TE4 城土卓巳)



人口知能は人間を超えるか
ディープラーニングの先にあるもの

松尾豊 著

この本は高専の学生ならば多くの人が興味を惹かれる内容です。題の通り、人工知能は近い未来人間を超えるという噂がありますが、具体的な人工知能の技術進展はどうなのか気になりませんか？人工知能技術の可能性、将来性を示してくれる本なのでおすすめします。

(TE3 吉田凌太郎)



博士の愛した数式
小川洋子 著

80分しか記憶できない数学者と家政婦、その息子の心のふれあいを描いています。

話のあたたかさや数学の面白さを感じて、博士の一言一言がとても心にくる作品になっています。

(2年2組 吉住亮汰)



金閣寺
三島由紀夫 著

1950年7月、金閣寺焼失事件。放火犯は同寺の青年僧であった。青年はなぜ金閣寺を燃やしたのか。吃音、親友の死、母との因縁、そして「美」の象徴として彼の前に立ちはだかる金閣寺一。彼が「美」を破壊するに至るまでの半生を描いた三島由紀夫の代表作。

(TE4 後藤亜希)



ゆきうさぎのお品書き
8月花火と米いちご

小湊悠貴 著

小料理屋とその周辺の人物をテーマ

にしたストーリー。料理の描写が細かく物語に引き込まれる。シリーズ物の二巻に当たる作品だが短編集であり、この本から読み始めても読みやすいのでオススメ。(HI3 徳原宙也)



代体
山田宗樹 著

大病をした人の意識を「代体」という脳デバイスに転送することが可能に

なった近未来が舞台のSF作品です。とても読み応えのある作品になっています。(1年1組 河原梢)



ウルトラマン「正義の哲学」
神谷和宏 著

「ウルトラマン」という特撮番組を、「子供向け番組」としてではなく、そのストーリーに込められた社会風刺などの面から読み解いていく作品。それぞれの作品の時代の社会問題や、社会風習を知ることができる。子供の頃とは違う視点で特撮番組を楽しめる。(CI3 古吉勇介)

レポート

あの日の現実

～益城町で起きたこと～

TE3 図書副委員長 坂本 かれん



あの日の現実

平成二十八年四月十四日、熊本県を震度七の地震が襲いました。時刻は夜九時二十六分、寝る準備をする人や課題をする人、好きなテレビを観る人や趣味を楽しむ人。何の変哲もないいつもの“日常”を送る人々は、一瞬で、“非”日常に墮ちました。

かく言うわたしもその時間はリビングで実験レポートをしており家族とは別の部屋にいました。突然下から突き上げるような縦揺れと停電、地面が割れるような地鳴り、停電で家じゅうは真っ暗になり、食器が床に落ち割れる音や棚が倒れる音が響くだけ。自分がどこにいるのか何を叫んでいるのか、どこに行けばいいのか、家族はどうしてるか。何も分からない。どうしたらいいどうしたらいい。完全にパニックでした。揺れが収まり、わたしは廊下に向かって家族一人一人の名前を呼びました。どこにいるの返事をして、無事なの怪我はしてないの。生きていて初めて出すくらいの大声でした。家族全員で駐車場まで逃げ出し、驚きました。家の前の道が無いのです。隣の古い空き家が崩れ道を完全にふさいでいました。さらに外はガスのおいが充満し、空は火事による炎で所々赤く染まっていました。私たち家族はその夜車の中で一夜を過ごしました。幸い、誰一人怪我をすることはありませんでした。

これはわたしの現実です。私の現実は、恐ろしかったが自分も家族は無事、というものでした。しかし、やはりつらい現実を味わった方もたくさんいらっしゃいます。確かに大変だったが無事でよかった、という幸せな現実を皆さんに知ってもらうのはとても大事だと思います。それと同時に、たくさんつらい思いをされた方がいるという現実も知っていただくべきだと思いました。なので、今回は私の地元である益城町にお住まいの方にお話を聞き、このようにまとめました。熊本に住む人間として知っておく必要があると思います。拙い文章ですが、どうか最後まで読んでください。

消防団の男性

益城町の消防団に所属されているANさん(仮名)という男性の現実です。

ANさんは三人家族で、奥様と五歳の息子さんと暮らしていました。近所にはANさんのご両親も住んでらっしゃいました。ご両親のお宅は長く住まわられているので少々古く、一回目の地震の後、危ないから、とANさんはご両親に自分の家に泊まるよう説得しました。しかしお父さんは、自分の家がいいから、一階で寝れば地震が来てもすぐ出れるから、と頑なに家に残ると言われたそうです。その夜はお母さんだけがANさん宅で夜を過ごし、お父さんは一人自宅の一階で寝られました。しかし、よりによって、その日にまた大きな地震が来てしまったのです。ANさんは奥さんと息子さんとお母さんを安全なところまで連れて行ったあと、消防団として救護に向かいました。ANさんが向かった先は、たくさんの方が逃げた避難所でした。ANさんはそこで逃げた人々の怪我の手当てをなさいました。消防団の救護活動は夜通し行われ、家族の元に戻れたのは夜明けごろでした。家に戻った時、ANさんは家付近に来ていた救助隊に聞かされました。お父さんが、崩れた家の下敷きになって亡くなった、と。ANさんは泣きました。自分をもっと説得していればよかった、救護に行く前にお父さんを助けに行けばよかったと激しく後悔しました。そんなANさんに、お母さんは言いました。あなたはお父さんの誇りよ、こんな大変な時にあなたは人を助けに行ったの、そんな凄いことはないわ。お父さんは思い出のたくさん詰まったあの家と一緒に天国に行けたのだから大丈夫。

ANさんは泣くのをやめました。亡くなったお父さんの分まで生きるのが自分の仕事だ、と言いました。ANさんの現実、たくさんの方を救い最愛の父を亡くした、というものでした。少しでも違う行動をしていればお父さんは助かったかもしれないけど、自分が他のたくさんの方たちを助けることはなかったかもしれない、だからこれでよかったと考えるようにしています、

と話してくださいました。これからは、お子さんと奥さんとお母さんと四人で、お父さんに見守られながら生きていこうです。



農家の男性

益城町で農家を営んでいるHTさん(仮名)という男性の現実です。

HTさんは大家族で4人のお子さんと奥さん、お爺さんの七人で暮らしています。HTさんの家系は代々農家を生業になさっているのでお宅にはたくさんの重機がありました。二回目の地震が襲ってきたとき、HTさんは落ちてきた屋根で頭を打ち怪我をなしました。家族全員で避難しているとき、HTさんの携帯が鳴りました。それは、崩れた家の下敷きになっている女性を重機で助けてほしい、という連絡でした。HTさんは自分の治療もそこに、助けに向かおうとしました。しかし、それを家族は引き留めまし

た。奥さんもお子さんも泣きながら、今一人で行くのは危ないよ、自分だって怪我してるんだから、自分の命を優先してくれ、と必死に説得したのです。それでもHTさんは重機に乗り込みました。自分より困っている人がいるなら助けるのが当然だ、絶対に帰ってくるから待ってて、と現場へと向かいました。着いた先は、まさに、地獄だったそうです。べしゃんこに潰れた家の前でお母さん、お母さんと泣きわめく女性。家には火がついていたそうです。HTさんは頭の痛みを耐えながら必死に救助を行いました。屋根を少しずつつかし、女性の名前を呼び続けました。そして、救助を初めて三十分ほどでやっと女性の姿が見えてきました。しかし、女性はすでに亡くなっていました。それでもHTさんは救助をやめません。どうか女性をここから出してあげたいという思いで、悔し涙を流しながら、続けました。家から出て毛布にくるまれた女性に、HTさんは土下座をしました。もっと早くに着いていたなら、救助を急いでいたら、助かったかもしれない。救えなくてごめんなさい。そんなHTさんに女性の娘さんが言ってくれました。母のために必死になってくれてありがとうございます、あなたのおかげで母は今ここで眠ってるんです、あなたがいないはずずっと瓦礫の下に居なければなかった、ほんとうにありがとうございます、と。それを聞いて、自分のしたことが少しでも助けになったと思えました。亡くなっているのだから仕方がない、とそこで諦めてしまえばそこまでですが、HTさんは諦めませんでした。その行動が、女性の娘さんの心を救ったのです。



電子ジャーナル事始め

特集

図書館長 大石 信弘

身の回りで調べたいことがあったら、みなさんはどうしますか？たぶん、googleやyahooなどの検索エンジンを使ってネットで調べる人も多いかと思えます。

でも、情報の出処が不明であったり、情報が古かったり、中には間違った情報を平気で載せているものもあります。

レポートや卒研で調べたいことがあるのに、こんな状況では使い物になりませんね。

こんな時、googleやyahooなどの検索エンジンとほとんど変わらない検索法で、正確な情報が得られるとしたら、どれほど助けになるでしょう。

熊本高专では、学术论文を検索、閲覧できるよう、いくつかの電子ジャーナルやデータベースと契約しています。本校に所属する教職員、学生であればだれでも使うことができます。

特に、これから紹介するScience Direct (SD)は科学・技術・医学・社会科学分野の2,500タイトル以上の電子ジャーナルを掲載する総合データベースですので、ありとあらゆることをこのデータベースだけで知ることができます。

手取り早い使い方は、検索するキーワードを入力する方法です。ヒットしないキーワードがないくらい、論文の数が多いのには、びっくりです。

1. 図書館の文献検索のページへ

では、これからSDの超簡単な使い方を説明しましょう。まず、図書館のHPの蔵書・文献検索のページに行きます。



2. Science Directのアイコンをクリック

そして、SDのアイコンに貼ってあるリンクをたどってSDのトップページに行きます。

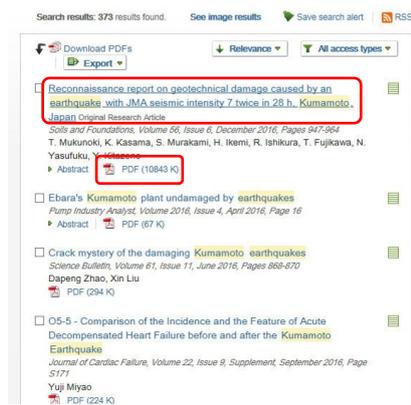


SDのトップページにたどり着けば、すぐ

に検索を開始することができます。

3. keywords欄にキーワードを入力

試しに、「熊本地震(kumamoto earthquake)」で検索してみましょう。



地震発生から1年も経っていませんが、すでに土木建築関係や物理関係、医学関係をはじめとした世界中の多種多様な学会誌で、熊本地震について373遍の学术论文が発表されていることがわかります。SDの論文はHTMLフルテキスト版やPDF版で閲覧、ダウンロードすることができます。何篇閲覧しても、何篇ダウンロードしても本校に所属していれば無料です。

4. タイトルまたはPDFのアイコンをクリック

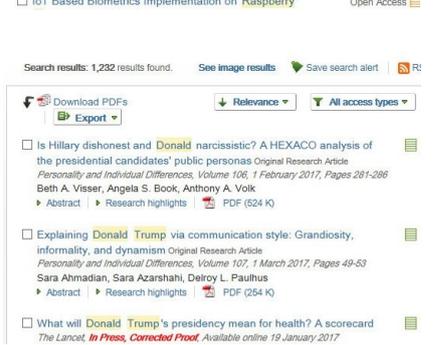
では、トップヒットの論文を見てみましょう。タイトルをクリックするとHTMLフルテキスト版、PDFのアイコンをクリックすればPDF版の論文を閲覧できます(図はHTMLフルテキスト版の例です)。もちろんダウンロードもできます。



上部には学会誌名、その下に論文名や著者名などの論文情報、それからア

ブストラクト、本文(序文、方法、結果、考察)、参考文献と続きます(図ではトミングされてアブストラクトまでしか見えていませんが、ちゃんと論文全体が手に入っています)。この流れは、学生実験のレポートと同じ流れですよね。

SDは自分が専門とする分野以外もカバーしているので、あらゆる分野を横断して俯瞰することができます。その例として、最近私がかまっている「ラズベリーパイ(raspberry pi)」で検索した結果と、影響がどの程度かはかりかねている「トランプ(donald trump)」で検索した結果を示します。



~~~~~

今回は電子ジャーナルの存在を知ってもらうことが目的だったため、簡単な検索方法しか述べていません。SDにはもっと高度な検索を使うことができ、目的の論文をかなり絞り込むことができます。詳細についてはSDのトップページにある「利用ガイド」を参照してください。

他にも、日本語文献検索サービスであるJDream III や国立情報学研究所の論文データベースであるCiNii Articlesなども利用することができます。これら3つ以外を利用する際は、契約内容によって検索できる範囲が異なっているので、詳細を図書館の文献検索ページで確認してください。

## 図書館活用のすすめ

TE4 図書委員長 城土 卓巳

今までの自分を振り返ると、理系の自分は読書をするのがあまりなかった。まして遊びたい盛りの若者がじっと静かに本を読む？ 他にやりたいことは山ほどある。という大義名分のもと読書を避けてきたような気がする。

そんな私が図書委員長という大役に任命されてしまった。おこがましいの一言につきる。しかしながらこの頃何かと読書に興味湧いてきた。なぜか、委員長になったからか、それもあるかもしれない。だが一番の理由は4年生という学年になって、2年後には社会人になり、独り立ちすることが現実味を帯びてきた今、自分の無知な部分に一種の不安を覚えたからである。

とりあえず読みやすい自己啓発本を手にしてみた。その道のプロが長年の経験を元に導き出したメソッドを、数時間で美味しい所だけ頂いた感じである。中には理解できないこともあるが、ほとんどのことなるほどと感心してしまう。私のものの見方とは別角度の見方を短時間でたくさん感じることが出来た。これらは今後の私の生活に活かすことが出来る。経験値のないことでも引き出しの数を増やすことができたのである。

読書で学ぶということはなんと手っ取り早く素晴らしいものであろうか。そう思うと小説も読んでみようという気になり、自己啓発本だけでなく、小説も読むようになった。

人の気持ちは今も昔も変わらない。少しのボタンの掛け違いで起きる不幸、少しのふれあいから生まれる幸せ、人の欲望、愛、憎しみ。これら全ては人間であれば、誰もが抱いたことのある感情である。小説は物語を通してそれらを文字で表現する。小説を読むことで心が豊かになり、心の機微も理解できるようになるのではないだろうか。

本が好きじゃないあなたもまずは本屋に行くつもりで図書館に来てみよう。なんでもいい、興味のある本を手にとってみよう。きっと共感できる本に出会えるはずだ。そして、その本は必ずあなたの心の成長を手助けしてくれるはずだ。

皆様のご利用を心からお待ちしております。

## 編集後記

今年度のくぬぎの森 第28号をお届けします。

今号は、学生からの寄稿を多く取り入れました。

熊本地震で被災した副委員長の坂本さんがリポートした、益城町の方々の死と生にまつわるエピソードは、人間味があふれ胸を熱くします。図書館の交流スペースDENでも掲示していたので、ご存知の方もいるかもしれませんね。また、みなさんの同年代の図書委員がおススメする本には興味を喚起されました。必読ですね。そして、恒例の校内読書感想文コンクールの最優秀賞作も掲載しています。

どれも学生のみずみずしい感性が溢れるものばかりです。どうかお楽しみください。

図書館長 大石 信弘

## 図書館統計（平成28年 1月～12月）

（平成29年2月28日現在）

| 入館者数 | 1月    | 2月    | 3月    | 4月    | 5月    | 6月    | 7月    | 8月    | 9月    | 10月   | 11月   | 12月   | 合計     |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
|      | 2,980 | 5,199 | 1,763 | 1,687 | 3,308 | 6,025 | 3,477 | 3,966 | 2,348 | 3,756 | 5,209 | 2,724 | 39,330 |

| 蔵書数 | 和書     | 洋書    | 合計     |
|-----|--------|-------|--------|
|     | 70,787 | 4,421 | 75,208 |

| 日本十進分類法<br>(NDC) | 0総記 | 1哲学 | 2歴史 | 3社会<br>科学 | 4自然<br>科学 | 5技術工<br>学 | 6産業 | 7芸術、<br>美術 | 8言語   | 9文学   | その他 | 合計    |
|------------------|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----------|-----|------------|-------|-------|-----|-------|
| 分野別貸出冊数          | 546 | 136 | 69  | 259       | 553       | 374       | 33  | 203        | 1,705 | 1,065 | 198 | 5,141 |

| 月別貸出冊数 | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 合計    |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 1年生    | 121 | 164 | 75  | 39  | 37  | 17  | 60  | 26  | 67  | 33  | 639   |
| 2年生    | 12  | 34  | 16  | 37  | 71  | 25  | 39  | 38  | 63  | 24  | 359   |
| 3年生    | 78  | 185 | 114 | 145 | 25  | 42  | 136 | 111 | 96  | 81  | 1,013 |
| 4年生    | 28  | 73  | 97  | 58  | 118 | 34  | 131 | 65  | 144 | 111 | 859   |
| 5年生    | 100 | 89  | 59  | 58  | 59  | 31  | 31  | 32  | 63  | 33  | 555   |
| 専攻科1年生 | 12  | 36  | 26  | 42  | 47  | 15  | 39  | 29  | 31  | 30  | 307   |
| 専門科2年生 | 24  | 56  | 48  | 44  | 33  | 6   | 44  | 42  | 22  | 20  | 339   |
| 教職員    | 42  | 72  | 71  | 43  | 67  | 42  | 72  | 46  | 26  | 48  | 529   |
| 一般利用者  | 7   | 8   | 21  | 28  | 21  | 28  | 24  | 16  | 14  | 17  | 184   |
| 合計     | 424 | 717 | 527 | 494 | 478 | 240 | 576 | 405 | 526 | 397 | 4,784 |

## 開館時間

| 曜日    | 対象期間   | 時間          |
|-------|--------|-------------|
| 平日    | 4月～9月  | 8:30～20:00  |
|       | 10月～3月 | 8:30～19:00  |
| 土曜    | 4月～3月  | 12:00～17:00 |
| 日曜・祝日 | 終日閉館   |             |

## 貸出期間と貸出冊数

| 貸出の種類 | 拝受者            | 貸出期間         | 貸出冊数  | 備考                     |
|-------|----------------|--------------|-------|------------------------|
| 一般貸出  | 教職員            | 2週間          | 5冊以内  |                        |
|       | 学生             |              |       |                        |
|       | 一般             |              |       |                        |
| 長期貸出  | 教職員            | 2ヶ月          | 10冊以内 | 教育及び研究に必要な図書館資料に限る     |
|       | 学生             | 春季・夏季・冬季休業期間 | 10冊以内 |                        |
|       | 卒業研究用<br>特別研究用 | 2ヶ月          | 10冊以内 | 卒業研究及び特別研究に必要な図書館資料に限る |